



No.89

Batton

The best attended top team of next



院長 佐藤 智彦

皆様、新年明けましておめでとうございます。

28日の御用納めの日から正月3が日の6日間にかけて、救急の患者数は161名で、そのうち20名の入院がありました。年末年始、特に大きなトラブルもなく今日を迎えられましたことは大変喜ばしい限りです。

私は病院を管理していく上で一番重要なことは病院の危機管理だと思っております。このリスクマネジメントが機能していなければ、いくら病院経営が良好でも問題外です。当院はこの10数年間、残念ながらこのマネジメントも病院経営も満足すべきものとは言い切れなかったようですが、ここ1年、職員皆様の努力でかなりの改善が見られて来ています。

さて、昨年はこの北上済生会病院の新築基本計画がまとまり、今年度は、いよいよ具体的な病院建設工事の設計段階に入っていくことと成りました。

昨年来、幾度となく病棟を巡回し、また仕事納めの日には赤坂副院長先生、青山総師長さん、小松事務長さんとご一緒に、この一年の慰労を兼ねて、病院すべての部署に伺い、職員の仕事ぶりや環境状態を拝見させていただきましたが、やはり何と言いましても「院内のレイアウトが悪い」の一言に尽きます。

多くの問題点をかかえた環境と旧態依然のシステムの下で、職員の皆さんは一所懸命に頑張ってお仕事をされてきましたが、これも作業効率の悪さから限界のようで、北上済生会病院における新病院建設は喫緊の問題であると痛感しております。

このように「新病院建設は我々の大きな夢」です。

この夢を叶えるには毎日毎日の地道な積み重ねの努力しかありません。

昨年のリオオリンピックで日本は多くの金メダルを獲得しました。

そのどの選手にも共通して言うておりましたのが夢を諦めずに地道に人一倍 絶え間なく努力をして来た結果の賜物であるということでした。

しかし、この努力をしたからといって、それが結果に結び付けられるとは限りません。

「努力だけでは結果に繋がらない。しかし結果を出すためには努力は必要不可欠である」。

この努力はただ徒（いたずら）にやっても効を奏しません。自分の弱点を知り相手を知り、そこを克服してこそ、功を成す事に繋がるのではないのでしょうか。



そういう観点から当院の弱点を見ますと、当院では職員間のコミュニケーション不足が根底にあるようです。

コミュニケーションが不足しますと的確な情報が伝わらなくなります。

これは東京都庁の築地・豊洲問題や膨大なオリンピック予算問題、東芝の何十億という粉飾決算にも挙げられるが如く、その組織力も低下しますし、お互いの気持ちがバラバラとなり方向性も見失ってしまいます。

そういう意味から、今年の keyword はコミュニケーションと情報開示と組織力の3点を挙げたいと思います。

冒頭に掲げましたリスクマネジメントはまさにこの3点の keyword がベースになってリスクに対するKY（危険予知）がなされます。

病院全ての業務においてKYの精神を持って仕事に従事して下さい。

病院では患者さん自身が既に何らかのリスクを持っています。

疾患に伴う急変を初め、誤嚥、転倒事故、医療機器に関する種々のトラブル、術後管理、薬物管理栄養管理等々において何時何処で何が起こるか分かりません。

さらに病院の施設環境の面、事務的な種々の問題等々においても同様なKYの精神が必要です。

どうすれば危険予知が出来るかは、只一つです。

相手の身になって常に考え、協力してあげることです。1人で対応してはダメです。

自分の仕事に垣根を作ってはいけません。

垣根を作ると視野や思考が狭くなり想定外のことに対応できなくなります。

NHKの教育放送“仕事学のすすめ”で話題になった唯一日本で国際評価を受けた亀田総合病院の精神“All ways say yes”も“セクションを超えて自分の身の回りに生じた全てのことにおいてnoでなく、全てyesの対応で行う”これこそが私の院長就任挨拶のモットーに掲げた「己を忘れて人に尽くすは慈悲の極みなり」と相通ずるものではないでしょうか。

この精神は北上済生会病院での医療に携わっておられる誰でもがお持ちになって日頃の業務をされておられると思います。

当院の基本理念である「寛容の精神」。

これは親が子を思う慈愛に満ちた寛大な気持ちで受け入れる心です。

職員の皆さん、自分自身に自信を持って、自分の足下をしっかりと見つめ、当たり前のことを着実に誠意を持って各々の日頃の業務に励んでください。そうすれば、結果は自ずと付いて参ります。

最後に、今年私の干支である酉年（とりどし）です。この酉（シュウ）という漢字は「酒つぼ」を描いたもので、本来の意味は「収穫した作物から酒をしぼる」「収穫できる状態であることから『実る』』ということを表し、その

ことから果実が成熟した状態を表していると言われています。

今年こそは昨年来、我々が取り組んでまいりました新病院の

基本構想の設計案が『実り』熟して行く年であります。

そして「とりどし」の「とり」は縁起を「とりこむ」

良い干支ですので、この一年間、皆様が事故無く、

健康で、仕事を楽しみ、充実した時間を過ごせて、

福を「トリ込める」ことを祈念して、私からの2017年

新春の挨拶にしたいと思います。

（平成29年 新春）



お問い合わせ先：北上済生会病院 地域医療福祉連携室
電話：0197-64-7722（内線 1220・1221・1530・1531）
FAX：0197-64-1133（直通）

